

「自分好み」かなえる作業机

しずおか経済

プライベート空間を確保しながら広い作業スペースを持つ、スタイリッシュな作業用の机を開発した。配線をフレーム内に収容でき、複数のパソコンのモニターをつるすことが可能な機能も有し、家庭や企業、シェアオフィスなどで活用されている。

2021年に販売開始した作業用机「KAKINE(カキネ)」は、古くから日本の庭や敷地の境界など



にあった「垣根」から発想を得た。机を囲うように伸びるフレームが、完全に区切ることなくほどよい境界となり、周りと適度なコミュニケーションがとれる。セミオーダーで自分好みの机を作り出せるのが特徴だ。正面のフレームに1〜3台のモニターをつるせるほか、フレームに沿ってホワイトボードを設置すればメモ代わりに、感染防止にもなる。照明やコンセ

伊藤工業 (沼津市)

ント、USBの充電ポートなどを好きな場所に設置することも可能という。

フレームの長さや机の天板の大きさ、色などは自由に変更できる。仕事や学習、ゲームなど用途は多岐にわたる。22年から、オーダーメイド品より廉価で、個人で組み立て可能な既製品タイプの販売も始めた。

08年に創業し、溶接などを専門とする町工場として

て、建設重機の油圧配管や、煙突などの生産を受注してきた。だが、伊藤博高社長(41)は「(完成品を消費者に販売する)メーカーになりたい。技術を武器にオリジナル商品を作って発信したい」と考えていた。

20年、大手メーカーで企画から開発、販売までこなした経験のある松本正さん(43)をスカウトし、社内でアイデアを出し合った。コロナ禍でのパーティション

需要の高まりなどを見て、感染症対策にもなる作業机の開発を決めた。

開発で最もこだわったのがフレームのアーチ部分

だ。モニターや照明を設置するためにフレーム内部に配線を通すため、フレームの角をカーブに加工する必要があった。そこで、同社が持つ3次元レーザー加工機を活用。これまで培った

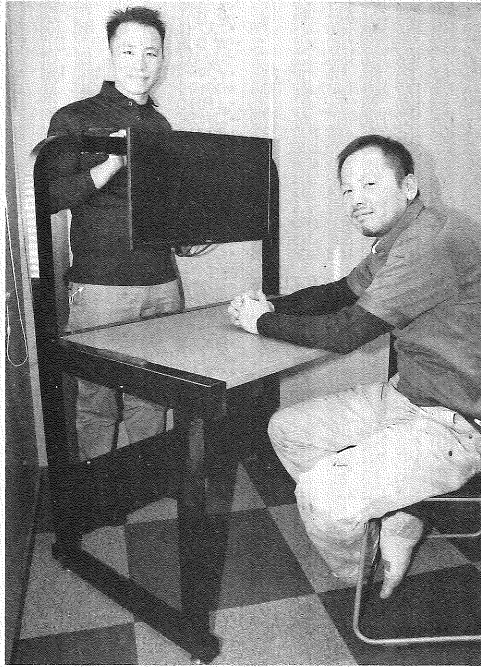
技術を生かして特殊な形状に加工することで、強度がありコストを抑えたフレームが完成した。松本さんは「自社が持つ技術で何ができるかを考えた」と胸を張る。

KAKINEの販売は好調だ。ただ、まだ売り上げの大半は従来の受注生産品が占める。それでも、KAKINEの開発・販売を通して、技術力の高さが認知

され、これまで取引のなかった異業種からの問い合わせも増えてきたという。

松本さんは「普通の町工場ではやらない、設計から製造、販売まで一気通貫でできるのがうちの強み」と話し、伊藤社長は「KAKINEを武器に製品を提供、提案する側に立ってほしい」と手応えを感じている。

(栗山泰輔)



伊藤社長(右)と開発責任者の松本さん(沼津市で)

本社は沼津市大諏訪651の3。KAKINEの詳細は専用サイト(<https://kakine-frame.com>)で確認できる。

2022年販売開始の「KAKINEスマートタイプ」は、モニターが一つ付けられるものが税込み11万9800円(1月末までの限定価格)。



シェアオフィスに設置されたKAKINE(沼津市で)